

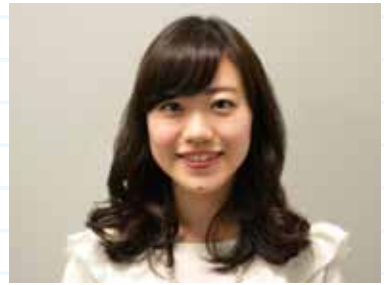
どんな業界や職種を志望しましたか

就職が進学が迷っており、「いい会社との出会いがあったら就職しよう」と考えて就職活動をスタートしました。まずは特に業界を絞らず、さまざまな企業を見ていたのですが、そのうちに何となく惹かれる企業が出てきたので、なぜそう感じるのかを突き詰め、自分が携わりたい仕事を探りました。

そして明確になったのは、「お客様に喜ばれるモノやサービスを提供できる」「それが役立っていることを見届けられる」「チームで成し遂げる」という3つの軸でした。その軸で企業を絞り込み、IT業界7社と金融機関3社にエントリーシートを提出しました。

内定先を決めたポイントは

色々な説明会に参加する中で、一番ワクワクしたのは野村総合研究所でした。社員の話から仕事に対する強い情熱や向上心がひしひしと伝わってきたのです。それから何人かの先輩社員にOB訪問し、その姿勢が全員に共通していると感じました。特に心に残っているのは、「NR-



は忙しいというイメージがあるかもしれないけれど、仕事を嫌々やらされているのではない。お客様のために何ができるのか、どうすればより良くなるのかを考えて自主的に仕事に取り組んでいるんだよ」という言葉です。また、女性社員にも話を聞き、女性が活躍できる環境だと感じられたことも決め手になりました。情報系の専攻ではなかったためIT業界への就職に少し不安はありましたが、文系から入社している人もいること、充実した研修があることから安心してきました。

就職活動で一番苦労したことは何ですか

エントリーシートを書く時に

Case

01

就活体験談

就職活動は、徹底的に自分と向き合える貴重な機会

早稲田大学 先進理工学部 電気・情報生命工学科 4年 根木 愛里

【就活データ】

- 就活開始：2013年12月
- 就活終了：2014年4月
- 志望業界：IT、金融
- エントリー：10社
- 面接社数：6社
- 内定社数：4社
- 内定先：株式会社野村総合研究所

どうしても出来事の羅列になってしまい、考えや思いを上手く表現できず、最初はとても苦労しました。原因は自己分析の不十分さにあると考え、自分の人生を遡り、それぞれのターニングポイントで何を考えたのか、なぜその選択をしたのか、とこゝん突き詰めていきました。すると、自ずと価値観や考え方の軸が見えてきたのです。これらを入りシートに落とし込んでいきました。

結果的にたくさん時間と努力を自己分析に割きました。これほど自分と徹底的に向き合う経験は、就職活動をしなければできなかったと思います。

就職活動で大切に感じたことは

面接のために準備をすることはもちろん大切です。しかし面接は「発表会」のように用意したシナリオ通り話す場ではなく、企業とのコミュニケーションの場だと思えます。ですから私は質問をしっかりと受け止めて考え、自分の考えを自分の言葉で伝えるよう心掛けていました。そのためには自分を理解していただかなければならないので、やはり自己分析が大切だと実感しまし

た。
これから就活に臨む読者へのアドバイスをお願いします

就職活動中は色々な情報が飛び交いますが、人から得た感覚的な情報や書籍・インターネットの情報に流されず、ぜひ自分で企業に足を運んで、見て、聞いたことを大切にしてください。他の人と自分の感覚や、求める仕事像はまったく同じではないからです。

また、大学で勉強した分野だけに絞らず、視野を広げて企業を探すことをお勧めします。理系学生は特に、専門分野が自分のすべでだと考えてしまいがちです。しかしこれまでの人生の中で、専門分野に取り組んだ期間は数年間です。それだけにとらわれず人生全体を振り返って「自分には何が向いているのか」「どういう働き方をしたいのか」を考え、幅広い分野に目を向けると、自分に合う企業に出会える可能性が広がると思います。

どんな業界や職種を志望しましたか

大学ではエンジンの研究をしており、将来はモノづくりの仕事をしたと考えていました。就職先として考えたのは、研究内容が活かせる農機、建機、自動車メーカーなど。最終的に自動車業界に絞りこんだのは、日本を代表する産業でエンジンとして社会に貢献したいと考えたからです。当初は就職が進学か迷う気持ちもあったのですが、OBの方から「いずれ就職してモノづくりをしたいなら、チャンスが開けているときに挑戦した方がいいよ」とアドバイスをいただいたことがきっかけで、就職活動に専念することに決めました。

内定先を決めたポイントは

説明会やOB/OG訪問で色々な方に話を聞き、仕事に対する姿勢に最も共感できたのが日産自動車でした。心から仕事を楽しくできることが伝わってきて、私もこんな風に信念を持つている人たちと一緒にクルマづくりをしたいと思ったのです。また、女性が活躍できる環境

であることも重要なポイントでした。女子学生向けの企業セミナーなど、女性社員の声を直接聞くことができる場にも積極的に参加しました。日産自動車はダイバーシティを推進しており、女性が力を発揮できる環境づくりに早くから力を入れていきます。制度が整っているだけではなく、実際に重要なポジションで活躍している女性社員がたくさんいることは、非常に魅力的だと感じました。

理系ナビのサービスはいかがでしたか

理系ナビのサイトを情報収集に活用していました。色々な企業の情報が掲載されているので、初期段階での業界研究や企業研究に役立ちました。



【就活データ】

- 就活開始：2013年12月
- 就活終了：2014年5月
- 志望業界：メーカー（自動車）
- エントリー：約50社
- 面接社数：5社
- 内定社数：2社
- 内定先：日産自動車株式会社

case

02

理系女子の

いろんな人の力を借りて、様々な視点や経験を取り入れる

日本大学 理工学部 機械工学科 4年 河井 菜見子

就職活動で一番苦労したことは何ですか

ひとつは、モチベーションの維持です。就職活動中は先が見えなくて不安になることもあります。そんな時には一人でよくよせず、誰かと話すことが一番。私は大学の友人と会って励まし合い、不安を乗り越えるようにしていました。

もうひとつは面接です。これまで社会人を相手に自分の考えを自分の言葉で話す機会が少なかったため、最初はかなり苦手を意識がありました。これは経験を積むしかないので、就職指導課の模擬面接を活用したり、先輩からアドバイスをもらったりして、少しずつ慣れていきました。

就職活動で大切に感じたことは

就職活動を自分一人だけでしようと思わず、いろんな人から力を借りることが大事だと感じました。もちろん最終的に決断するのは自分自身ですが、情報収集も、エントリーシートの作成も、面接対策も、モチベーション維持も、自分だけの力では限界があります。就職指導課や

OB/OG、友人など、様々な人から自分にはない視点や経験を取り入れたことが、いい結果につながったと思います。

これから就活に臨む読者へのアドバイスをお願いします

自分はどうな仕事をしたのか、何が向いているのか、就職活動始める時にまずしっかりと考えてください。「やりたいことがなかなか見つからない」という人もいるかもしれませんが、そのまま漫然と就職活動をしていても、いい結果にはつながらないと思います。何か糸口が見つければ、そこから明確にいけるはず。私のように研究していた分野から見つかることもありますし、友人の中にはインターシップでやりたいことが明確になったという人もいます。OB/OG訪問や就活仲間との情報交換、幅広い業界の説明会に参加することで新しい発見があるかもしれません。その糸口を見つけるためにも一人で閉じこもらず、外に出てたくさんの人との接点を持つようにしてください！